

競 技 注 意 事 項

1. 本大会は 2026 年(公財)日本陸上競技連盟規則並びに本大会要項による。
2. アスリートビブスは、中学生の競技者は中体連、高校生の競技者は高体連がそれぞれ指定したものを、それ以外の競技者は大会本部が用意したものを胸と背に付けること。(跳躍競技に出場する者は、胸部または背部いずれか一方でよい。)また、トラック競技に出場する者は腰に右腰のやや後ろに腰ナンバー標識をつけること。
腰レーンナンバー標識は、中学・高校・クラブチームは各自で準備すること。小学生・一般の選手は貸出する。
3. トラック種目に出場する選手は招集所で、フィールド種目に出場する選手は各競技場所で行う。招集所はスタンド下ロビー内のトイレ側に設ける。招集は、競技順序記載の招集時間で行う。必ず競技者本人が点呼を受け、アスリートビブスを見せること。ただし、招集時に本人が他の種目に競技中である場合に限り代理人の点呼を認める。
4. 走路順及び試技順は、アスリートランキング記載のとおりとする。ただし、トラック競技の決勝種目は、大会総務が抽選により走路順を決定する。
5. A男 5000mは、スタート後 20 分が経過した時点でレースを打ち切る。
6. 本競技場は全天候舗装であるので、スパイクシューズを使用する場合、スパイクは 11 本以内、長さは 9mm 以内とする。ただし、走高跳・やり投の場合は 12 mm以内とする。また、競技に使用する靴底の厚さは日本陸上競技連盟競技規則 TR5.13.3 によるものとする。
7. リレーのオーダーは、リレーオーダー用紙に記入し、招集完了時刻の 1 時間前までに招集所に提出すること。リレーオーダー用紙は、各チームの受付封筒に入れるほか、招集所に予備を置く。
8. 走高跳のバーの高さ及び上げ方は、当日審判長が決定する。
9. **小学生に限り、スタートはスタンディングスタートを可とする。**
10. 小学生の走幅跳は、全員が 3 回の試技とする。
11. 投てき競技の用具は、各自が持参したものを使用してもよい。ただし、9 時までには大会本部で検査を受けること。
12. スパイクシューズを履いたまま建物の中(ホール・階段・廊下等)に絶対に入らないこと。
13. 競技中に発生した障害・疾病については主催者(医務係)において応急手当はするが、その後の処置については責任を負わないので、競技に出場する際は十分注意すること。